

「お疲れさまでした」

石田正人前市長退任

9月14日、平成18年9月に市長就任以来4年間の任期を終えた石田正人前市長は、最後に2度市役所に向かつて深々と頭を下げ、思い出の詰まった市役所を後にしました。

石田前市長は、「子どもに夢と希望を、市民に元気を、お年寄りには安心安全を」を市政の基本として掲げ、保育園や中学校の統合、ごみ処理施設建設、介護施設の開設など多くの事業や課題に取り組み、北陸新幹線飯山駅開業に向けては、まちなか観光の拠点となる高橋まゆみ人形館の開館や新幹線飯山駅舎デザイン案を決定するなど、大きな成果を残されました。

職員の拍手に送られ、退任式会場を後にする石田前市長



前飯山市長
石田正人

退任あいさつ

今年の夏は、記録的な異常高温の影響で干ばつが発生しましたが、大地にしっかりと根を張った稲は、秋にはしっかりと実を付けて、人の命を育む食糧となつて収穫を迎えさせてくれました。

紅葉して、また白銀の世界へと変わっていきます。はつきりとした四季の移り変わりのなかで時代が刻まれていくように、悠久のふるさと飯山市も、市民の皆さんと一つになつて深く根を張り、どんな風雪の時代でも一歩一歩確実に前進し、だれもが賛辞してくれ

る発展が進められております。私も市民の皆さんに推され市政を担当させていただきました。4年間の存在を省みれば、「子どもに夢と希望を、市民の皆さんに元気を、お年寄りには安心安全を」を基軸に、議会や悠久のふるさと懇談会、各行政委員、区長会のご

域の産業の振興を進めるため、振興公社と観光協会を統合して「信州いいやま観光局」を設立し、インバウンドの取り組みやワールドグリーンツーリズム指定市を取得して、中国大連の農業研修生派遣事務所に飯山事務所を開設し、時代の先取りとなる国際的な観光事業を実施させていただきました。

址を中心に整備を進め、高橋まゆみ人形館も、高橋先生のご協力をはじめ市民のご支援もあり開館することができました。10月には入館者10万人を達成し、飯山の経済の活性化にも貢献することができたと思っております。

就任当初より飯山赤十字病院の医師不足、柳原地区の水枯れ問題、後継者対策、企業誘致等多くの課題に対し、市民の皆さんと一緒に一歩一歩

高橋まゆみ人形館、入館者10万人を達成

入館者5万人を達成してから3か月が経過した10月1日、高橋まゆみ人形館では、記念すべき10万人目の来館者を迎え、記念セレモニーが開催されました。

10万人目の栄誉を手にしたのは、山形県大江市から4時間をかけて自家用車で来館した伊藤昌子さん。伊藤さんには10万人の記念として、足立市長より記念品の目録、高橋まゆみさんよりサイン入りの図録などがそれぞれ贈呈されました。

伊藤さんは、山形県酒田市で開催された展示会で初めて高橋さんの人形を見て以来、

もう一度見たいと思っていたところ、飯山市の高橋まゆみ人形館の情報を新聞で知り、ご夫婦で来館したところ今回の幸運を手にしたそうです。

高橋まゆみさんの人形を「母親や父親を思い出させる表情が良い」という伊藤さんは、自宅でグループホームを経営しており、ホームを利用してのお年寄りのやさしい表情とも通じるところがある」と話していました。



記念写真で喜びの表情を見せる伊藤昌子さんと夫の正勝さん

見すごすな 幼い子どもの

～ 11 月は児童虐待防止推進月間です～

SOS

【お問い合わせ・ご相談・目撃情報など】

中央児童相談所 ☎026-228-0441 飯山市福祉事務所 ☎62-3111 内線171

全国的に児童虐待の相談件数が増加しており、子どもの命が奪われる重大な事件も後を絶たない状況です。児童虐待は「育児に不安がある」、「夫が育児に協力してくれない」など、親が抱える問題が背景にあり、どの家庭でも起こりうることで言われています。

虐待には、暴力を振るう身体的虐待のほか、ネグレクト（育児放棄）、心理的虐待、性的虐待があります。虐待を受けた子どもは自分を大切に思えず、心に受けた傷に一生苦しむこともあります。

飯山市では、児童相談所、学校、医師会など子どもに関わる機関等で要保護児童等対策地域協議会を組織し、情報交換や広報啓発等を行っています。また、家庭児童相談員を福祉事務所に配置し、虐待や養育に関する相談・支援を行っています。

子育てに悩みや不安を感じたら、自分だけで抱え込まず、保健師や保育士、家庭児童相談員に相談しましょう。また、「虐待かな?」と思われる子どもや家庭を知った人は、中央児童相談所または飯山市福祉事務所へご連絡ください。社会全体で子どもを見守り、児童虐待のない社会にしていきたいです。

意見を伺いながら、「飯山丸」の進むべき方向を定め、しっかりと財政基盤をつくりながら、全ての事業を市民の皆さんと行政が一つになり協働で取り組んでまいりました。

エコパーク寒川の建設につきましては、瑞穂の皆さんをはじめ新たに建設させていただいた岡山藤沢区、そして関係されました多くの皆さまにも大変なご理解とご協力を賜り心からお礼申し上げます。

少子化が進むなかで、飯山の将来を背負う子ども達の教育こそ充実すべきと、照丘高校を県より買収、4年後には飯山高校を県より譲り受ける約束をし、城北・城南中学校の開校を実現できました。また市民の皆さんのご協力のもと、新たに3高等学校を統合することによる「飯山高校」の発足も現実のものとなつてきました。



中国大連市への連絡所開設にあたり協定書に調印する石田市長（当時）と沙総経理

「なりの里」「すばる」等を移転統合し、高水福祉会へ運営委託を実施してまいりました。

洪水の被害を二度と繰り返すことの無いようにと国や県に陳情要請を行い、巨費を投じて漏水か所等の補強工事が実施されており、一級河川の整備や内水排除の施設も整いました。これも市民の皆さんの要請活動のたまものでもあります。

4年後の北陸新幹線飯山駅開業に向けて工事が進むなかで、信州の北の玄関口としての新幹線飯山駅の周辺整備を進める一方、アクセス道路の工事も順調に進み、中央橋の架け替えも本年度より工事がはじまる予定となっております。

農業と観光が連携して、地